

令和6年度みえ介護生産性向上支援センター運営事業

運営：みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体

事務局

所在地：三重県津市栄町三丁目243

関権第3ビル 506 (R6.7.1開所)

一般社団法人三重県介護福祉士会

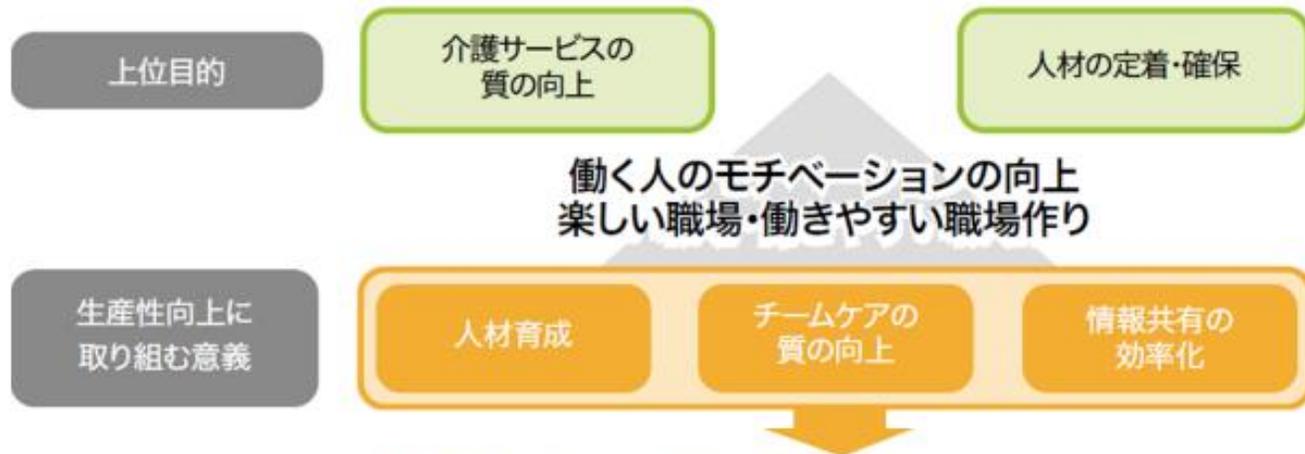
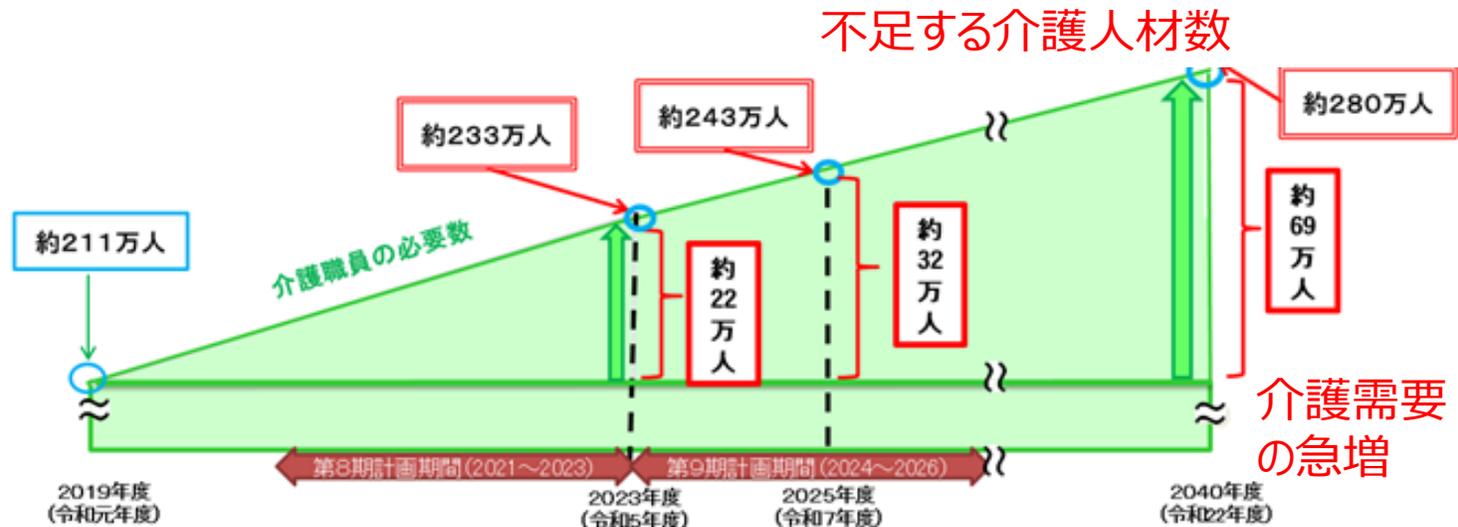
公益財団法人介護労働安定センター三重支部

はじめに～事業の趣旨と目的～

高齢者人口の増加により介護需要が大きく増える一方で、生産年齢人口の減少が続く日本においては介護需要を満たすだけの介護職員の人材確保が困難となっている。
この需給ギャップを改善するために、介護職の生産性向上を行う。

人材育成とチームケアの質の向上、そして情報共有の効率化の3点により生産性向上に寄与する。

さらに、介護職の生産性向上により、離職防止・定着促進・魅力向上による介護職の増加や、介護サービスの品質向上を実現する。



「介護サービスにおける生産性向上」

厚生労働省資料より引用

みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体



一般社団法人
三重県介護福祉士会

一般社団法人三重県介護福祉士会



連携



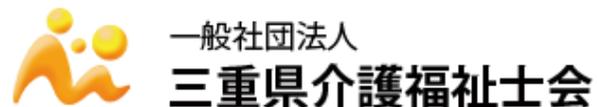
公益財団法人 介護労働安定センター

公益財団法人介護労働安定センター三重支部

事業実施の基本方針（共同事業としての効果）

- ①介護福祉士としての現場目線、介護事業所の管理者としての経営管理目線、介護福祉士同士のネットワークを最大限に活用した事業展開を図ります。
- ②介護ロボットやICT機器の導入により、利用者と介護職員の満足度を高める。長期的な就業（魅力ある職場づくり）に繋げ、直面する介護人材不足の解消の糸口になる事業を目指します。
- ③全国的なネットワークによる事例の収集力や、各種相談業務を担ってきた知見を活かした支援事業を行います。

実施体制（構成組織の紹介）



<p>理念・ビジョン</p>	<p>専門職能として、介護福祉士の資質の向上や介護に関する知識・技術の普及を図り、国民の福祉の増進に寄与する</p>	<p>介護を未来にわたって支えるため、働きやすい、働きがいのある職場づくりに貢献します</p>
<p>組織概要</p>	<p>会長 森 聖志 会員 793人 (R 6年4月時点)</p>	<p>代表理事 小野 晃 職員数 331人 (三重支部 5名) (R 6年4月時点)</p>
<p>主な取り組み・実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士取得にむけた研修 ・キャリアアップ研修 ・介護フェア、介護就職フェア（三重県社会福祉協議会主催）への事業協力 ・研修講師の派遣（介護労働安定センター三重支部、県内高校など多数） 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用管理責任者研修（厚生労働省受託事業）R5年度 ・雇用管理改善好事例集の提供 ・介護労働講習（実務者研修等） ・各種セミナーや研修（労務、経営、ICT、人材育成他）の企画運営 ・事業所訪問件数：延408件 ・介護労働実態調査（本部）
<p>アピールポイント</p>	<p>日頃、三重県における事業活動実績を基に、双方の優位性を発揮することにより、みえ介護生産性向上支援センター事業を地域ニーズを組み入れた事業として推進させることができる。</p>	

センター長：事業全体責任者

甲斐 義典

役割	氏名	備考
事業統括	甲斐 義典	副会長
事業全般・研修事業	森 聖志	会長
事業全般・経理	眞野 一輝	事務局
研修事業・事業周知	奥山 雅史	副会長
研修事業・事業周知	出口 達也	副会長
見学現地対応・イベント等	介護福祉士会 会員A	兼務職員

役割	氏名	備考
事業統括	浦 幸生	支部長
事業周知・相談支援	野呂 康之	介護労働サービス インストラクター
事業周知・相談支援	岩田 浩二	介護労働サービス インストラクター
相談支援	花崎 正子	介護能力開発アド バイザー
経理全般	倉田 ますみ	介護労働コーディネーター

外部専門家（委嘱）

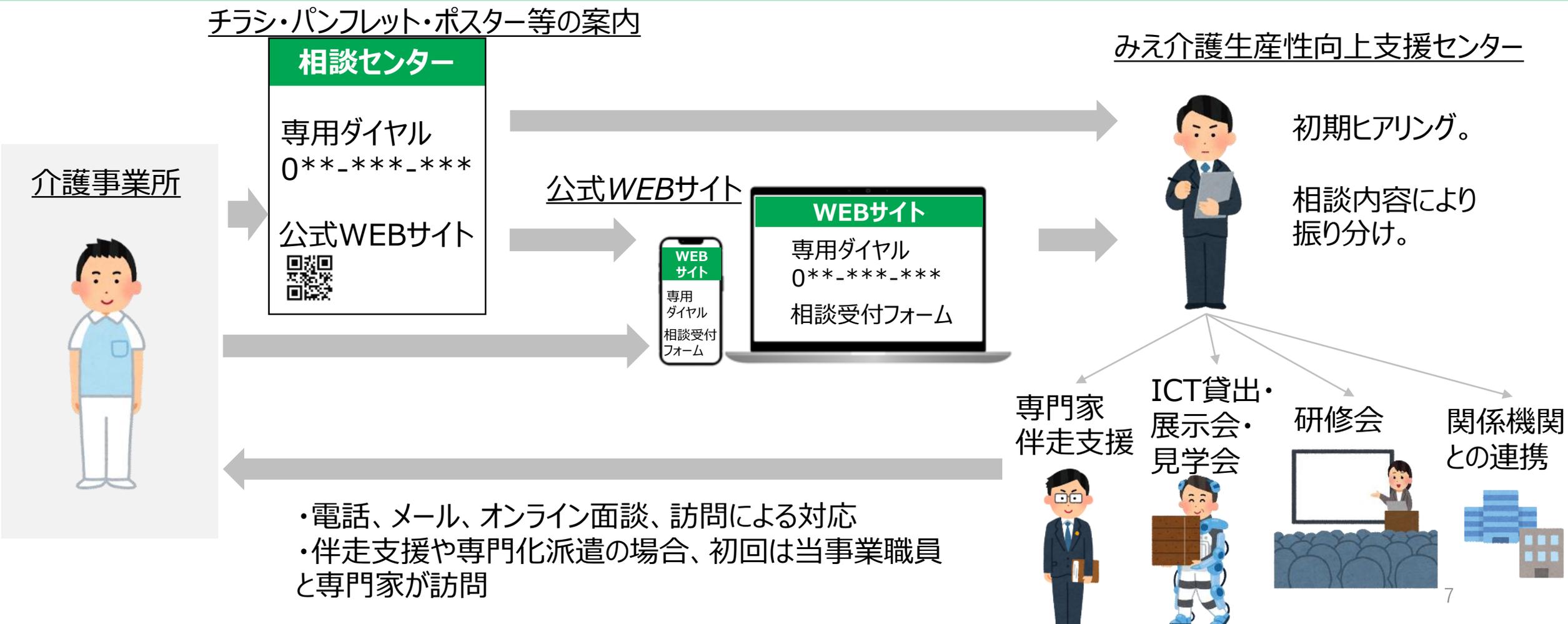
事業実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
広報			チラシ・ポスター・WEBサイト・SNS・関連団体・事業所への訪問										
介護現場革新会議				第1回							第2回		
相談窓口/個別支援													
伴走支援				支援先の選定・専門家派遣による伴走支援									
研修会						第1回		第2回					
展示会						第1回		第2回					
展示会(見学式)				随時									
ICT機器貸出				随時									
好事例作成					事業所訪問							事例集完成	
経験交流会													

相談窓口の設置と運営方法

【目的】 介護生産性向上のための総合的な相談窓口となり関係各所にスムーズに繋げる

- ・問い合わせは専用ダイヤルへの電話、またはWEBサイト内の相談受付フォームが利用できます。
- ・電話は平日9～17時の対応、相談受付フォームは24時間（※送信のみ）可能。土・日・祝日・年末年始は閉所とします。
- ・2回目以降のやりとりは電話以外にも、メールやオンライン面談、訪問等、効果的な手段で行います。
- ・専門家相談は90～120分とする。専門家派遣の前に当事業職員により事業所ニーズの把握など必要な情報収集を行います。

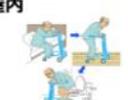
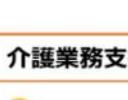


介護ロボット・ICT機器の展示会

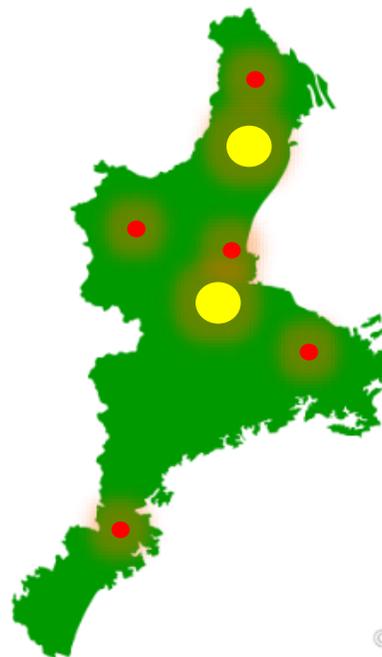
【目的】 実際の介護ロボットやICT機器に触れることによって、機器の選定や事業所への導入を支援する

- ・公益財団法人テクノエイド協会の福祉用具情報システム（TAIS）を参考に出展メーカーやベンダーに偏りが出ないようにします。
- ・介護ロボットの6大分野（厚生労働省・経済産業省策定のもの（下記参照））の全ての機器の展示を行います。
- ・出展企業を分野別に整理し、出展ブースを超える申込みがあった場合には、公正な方法で参加企業を決定します。
- ・メーカーやベンダーに中立的な介護ロボット・ICTの専門家を立ち合わせ介護事業所のサポートを行います。
- ・介護事業所の負担を鑑み研修会と同時開催とします。（一度に展示会と研修会を行うことで来会動機を高める）
- ・南北に長い三重県の地理的特徴や人口分布性に配慮し、北勢地域と、中南勢地域で1回ずつ行います。
- ・一般の方への周知（連携機関やSNS、WEBサイト、介護フェアなど）を図るとともに福祉用具・機器に触れる機会とします。
- ・導入済み施設の見学など現場での使われ方のイメージを膨らませる活動も補助的に行います。

【介護ロボットの6大分野】

<h3>移乗支援</h3> <p>○装着</p>  <p>・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> <p>○非装着</p>  <p>・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p>	<h3>移動支援</h3> <p>○屋外</p>  <p>・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○屋内</p>  <p>・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○装着</p>  <p>・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p>	<h3>排泄支援</h3> <p>○排泄物処理</p>  <p>・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調整可能なトイレ</p> <p>○排泄予測</p>  <p>・ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器</p> <p>○動作支援</p>  <p>・ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱などの排泄の一連の動作を支援する機器</p>	<h3>見守り・コミュニケーション</h3> <p>○施設</p>  <p>・介護施設において使用する。センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○在宅</p>  <p>・在宅介護において使用する。転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○コミュニケーション</p>  <p>・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</p>	<h3>入浴支援</h3>  <p>・ロボット技術を用いて浴槽に入り出す際の一連の動作を支援する機器</p> <h3>介護業務支援</h3>  <p>・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</p>
--	--	--	---	---

厚生労働省資料より引用



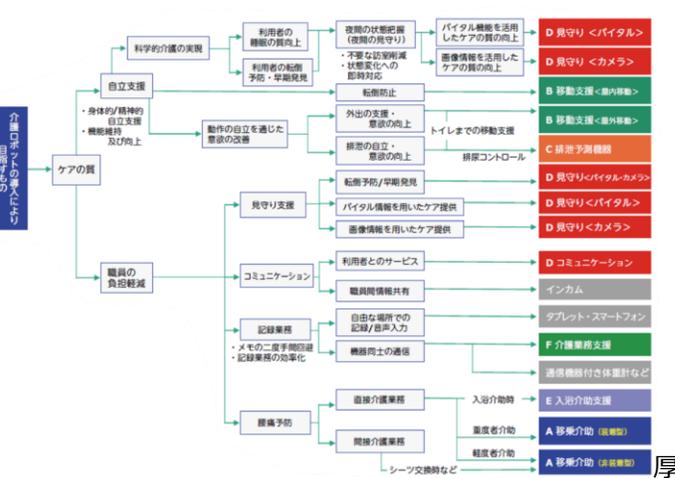
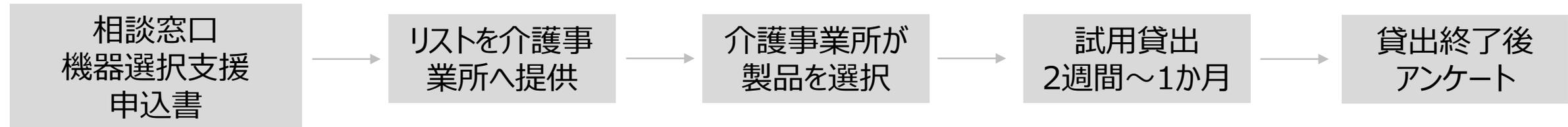
展示会を2か所で開催

見学対応
介護事業所の現場ネットワーク
三重県全域をサポート

介護ロボット・ICT機器の試用貸出

【目的】 実際の機器を自施設で使用することでオペレーションの検討や機器のミスマッチを防止する

- ・試用貸出の際には専用の申込書を使用します。
- ・必要に応じて機器選定のサポートを行う。機器選定には厚生労働省『介護ロボットのパッケージ導入モデル』の「介護ロボット導入のためのフローチャート」を参考にします。
- ・展示会の参加企業は、原則、機器の試用貸出も参加する。また展示会参加企業以外の企業も含めたリストを作成し、相談のあった介護事業所に適宜、資料として提供します。
- ・リストは6大分野（厚生労働省・経済産業省策定のもの）に分け、それぞれの分野において複数製品をリストアップします。
- ・試用貸出期間は2週間～1か月とします。
- ・特定の企業に偏りが出ないよう、企業の選定は介護事業所の判断を優先します。
- ・試用貸出後のアンケートを実施し、試用の効果や導入の可否、支援が公正に行われたか否かの確認を行います。



介護ロボット・ICT機器貸出リスト

■ 見守り	■ 介護業務支援
製品A	製品P
製品B	製品Q
製品C	製品R
製品D	製品S
製品E	製品T

※介護事業所と企業の間で試用に関する免責等が記された契約書を交わす

※必要な場合企業への謝金は3万円以内とする

事業所のタイプ、試用希望の介護ロボットの分類、試用までの手続き、本採用への後押し度合、今後希望する支援、支援の公正さについてのアンケートを行う。アンケートから適宜改善を行う。

厚生労働省『介護ロボットのパッケージ導入モデル』の「介護ロボット導入のためのフローチャート」より抜粋

生産性向上の取組に関する研修会

【目的】 生産性向上や介護ロボット・ICT機器導入を目指す介護事業所に対し生産性向上のための体系的手法を示す

-内容-

- ・厚生労働省『介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン』『介護サービス事業所におけるICT機器・ソフトウェア導入に関する手引き』などをベースにした研修を行う。<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei-information.html>
- ・因果関係図などの課題発見ツールをグループのワークショップ形式を実施することで研修の効果を高めます。
- ・事前に募った生産性向上の取り組みに関する質問への回答を行います。

-概要-

- ・介護事業所の負担を鑑み展示会と同時開催とします。（一度に展示会と研修会を行うことで来会動機を高める）
- ・研修時間は60～120分とします。（個別質問時間含む）
- ・講師は介護現場の生産性向上のための介護ロボットやICT導入の経験豊かな専門家がを行います。
- ・研修会参加者は事前に専用フォームや電子メール、FAXまたは郵便など申し込みの記録が残るもので受付します。
- ・参加受付時に印刷物資料を配布するとともに出席確認を行います。
- ・研修後に参加者に対しアンケートを実施し回収の上、集計します。

介護サービス事業（施設サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
(業務改善の手引き) パイロット事業令和2年度版



課題発見ツールの
因果関係図を使った
ワークショップ

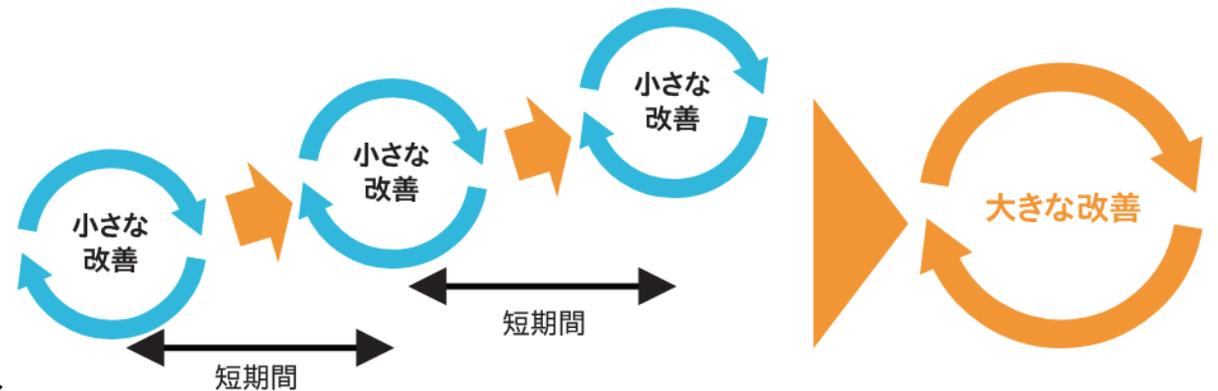
伴走支援の概要

【目的】 積極的に介護ロボットやICT機器を導入を検討している介護事業所に対し、導入の成功を高める支援を行うとともに、三重県内におけるモデル事業所として当事業にも協力を仰ぐ

- ・事業所の選定に当たってはサービス種別や地域等を考慮し、偏りがないう広報活動や情報収集を積極的に行います。
- ・三重県内におけるモデル事業所として取組の発表等に協力することに同意が得られる事業所を選定対象とします。
- ・事業所の選定は事業開始後早い段階で当事業体（専門家含む）において協議、決定し、受託元に報告いたします。
- ・選定した事業所に対して専門家を派遣し、相談・助言を行います。
- ・支援内容は、機器に関すること、機器導入に係る財務相談、機器導入済み事業所の見学などの支援を行います。
- ・支援対象事業所は3事業所とします。
- ・1事業所あたり5回、1回あたり2時間の専門家派遣（事業体職員の同行、オンライン面談も含む）を行います。
- ・伴走型支援終了（機器導入）後も、定期的に訪問し、状況把握や意見等を収集し助言を行います。

【伴走支援を成功させるポイント】

- ・プロジェクトに対するモチベーションをキープするサポート
- ・小さな改善事例を早期に創出する
- ・大きな改善は小さな改善の積み重ねによる
- ・期限を設定し、限られた時間の中でPDCAを回す
- ・小さな成功事例を作り出し、継続できるようなサポート



厚生労働省資料より引用

情報収集と好事例集による成果の普及

【目的】当事業（全国含む）の取り組みとして好事例の情報を収集し、その情報を発信する。

- ・当事業は好事例集を作成することも大きな事業テーマの一つである。そのため、取り組みの成果として、アンケートやKPI設定、可能な場合は画像や動画の撮影を行い好事例の質を高める工夫をいたします。
- ・当事業で得られた情報（ヒヤリング、アンケート結果、KPI、画像、動画等）から、好事例集としてリーフレットを作成します。
- ・リーフレットは厚生労働省・公益財団法人テクノエイド協会が発行する『介護ロボット導入活用事例集』（下記）を参考に作成する。
- ・リーフレットは3,000部と関係機関分100部を印刷配布します。
- ・WEBサイトにも好事例を蓄積していきます。
- ・好事例の発表会を行う。当該事業支援（伴走型支援）により介護ロボット等を導入した事業所の事例発表とそれに関わった専門家による基調講演の二部制で実施します。（2025年3月予定）

【リーフレットの内容例】

- ・導入した機器の状況
（機器の種類や台数など）
- ・機器導入の背景や選定理由
- ・機器の使用場面
- ・導入後の結果
- ・導入のための工夫

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名
社会福祉法人永寿荘 特別介護老人ホーム
ご福あげ館

所在地
〒362-0059 埼玉県上尾市平方 505

導入時期 2021年2月

使用状況
2018年4月
Maxi Twin (マキシ・ツイン) 5台 導入
2021年2月
Sara Flex (サラ・フレックス) 2台 導入

導入に動いた理由
2020年度 埼玉県介護ロボット導入支援特別事業を利用して2台購入

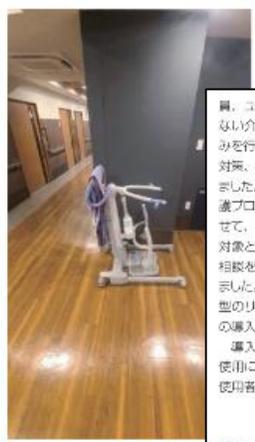
導入経路
2018年の事前と同様に持ち上げない介護の取り組みを実施すべくリフトを導入

導入のための協力機関
アルジョ・ジャパン株式会社

導入に費した費用
本体購入費のみ
敷設費、ランニングコストなし

機器の設置状況・使用状況

端座位はとれるが下肢筋力が低下している利用者を対象にスタンディング型リフトを導入



機器の導入理由・導入経緯

員、ユニットリーダーを中心に、施設全体に抱え上げない介護の考え方、技術を定着させるための取り組みを行いながら、各リフトを有効活用し、職員の腰痛対策、並行し安心して安全なケアの実現に努めてまいりました。その後、開所から3年目に持ち上げない介護プロジェクトチームより、吊り上げ式のリフトにあわせて、端座位はとれるが下肢筋力が低下している方を対象としたスタンディング型のリフトの導入について相談を受け、複数メーカー（3社）のデモを行いました。結果、アルジョ・ジャパン社のスタンディング型のリフト「Sara Flex」の幅広い対応力から2台の導入を決定しました。

導入後は、対象者のいる、1階と4階に設置し、使用に関しては機能訓練指導員のアシスタメントの上、使用者を選定しています。

機器の導入による介護業務の変化

利用者への効果・影響

指導員が受業しました。またその様子を動画で撮影・編集し、ユニットリーダーより、ユニット会議にて各スタッフに伝達し、実地研修を実施しました。

新人職員が入室した際は、入居時の研人教育カリキュラムの中で、ノーリフトに関する理論研修と実地研修を実施しています。

疑問点や質問がある場合は、都度、「アルジョ・ジャパン」社の担当者に連絡を行い、承知いただいたり、オンラインにて対応いただいたりしています。

また、管理については、現在、「持ち上げない介護プロジェクトチーム」にて対応を徹底しており、清掃や機器の管理を担っています。委員会のメンバーが主体的にかかわれる機会を創出することにより、使用頻度や選択の幅を広げていく目的があります。

職員への効果・影響

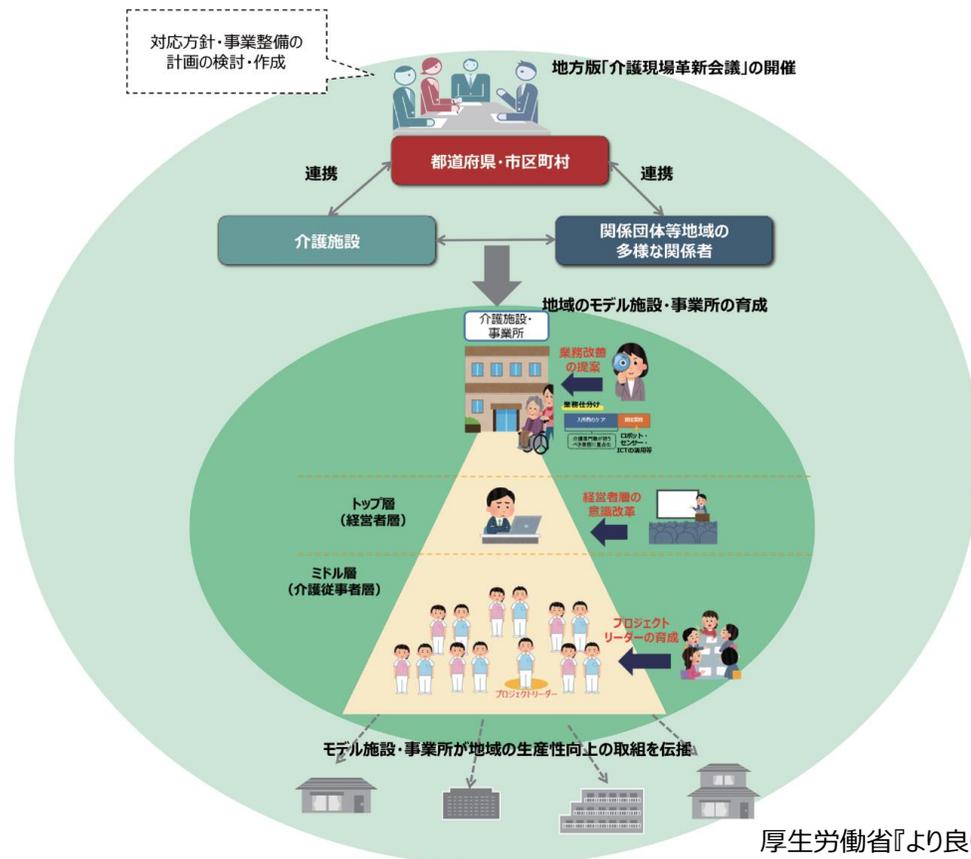
施設開所当時より、「持ち上げない介護」利用者にも職員にも双方に安全で優しい介護のもと、持ち上げない介護の実践に努めてまいりました。今回、スタンディングマシン導入により、介護の差別性がより一層増したと感じています。介護自体が楽になりハードにならないように、お一人お一人の身体の状況、抱えている課題に対して適切なサポートを行うことが重要になります。その中で、今回、中置の方に対して使用できる「Sara Flex」を導入できたことは、施設内における介護の幅を広げたと考えられます。あわせて、トランスファーの際に中置の姿勢により腰部に負担がかかっていた部分も軽減されたことにより、導入後の職員の腰痛の訴えがなくなりました。負担の軽減により、より質の高い介護が提供できるようになった

厚生労働省・公益財団法人テクノエイド協会
『介護ロボット導入活用事例集2022』より引用

介護現場革新会議運営補助業務

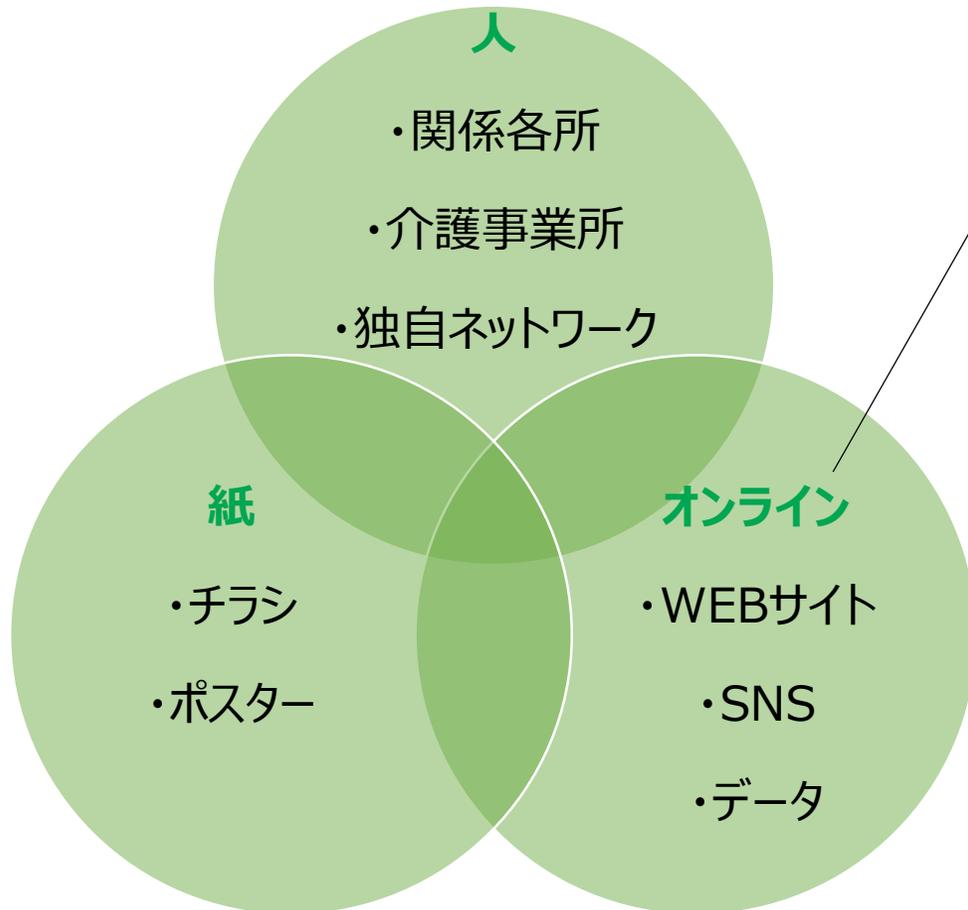
【目的】 介護現場革新会議のスムーズな実施および当事業との連携

- ・事業年度において2回開催します。
- ・開催時期は三重県様の指示に基づき、関係各所と調整の上で決定します。
- ・介護現場革新会議の会場確保、運営補助、関係資料の作成を行います。
- ・厚生労働省『介護分野における生産性向上の取組の支援・普及に向けた推進体制について』内の「介護現場革新会議の設置・開催に関する手引き」や『より良い職場・サービスのために今日からできること（自治体向け手引き）』を参考とします。
- ・当事業の進捗状況について報告を行います。

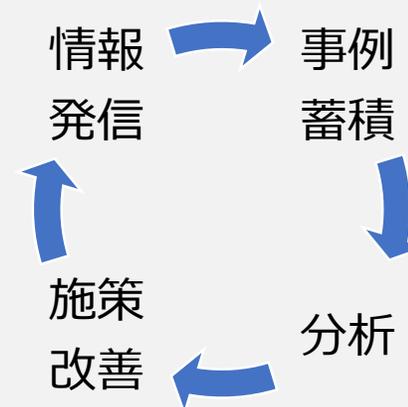


【目的】 当事業をできるだけ多くの事業所に認知してもらい、当事業による事業所のサポートを最大化する

- ・【人】 関係各所、介護事業所への広報協力依頼に加え、独自のネットワークによる現場間交流等を最大限活用します。
- ・【紙】 チラシ4000部・ポスター100部を作成し配布します。
- ・【オンライン】 公式WEBサイトを作ることに加え、SNSでも情報を発信する。支援実績をデジタルコンテンツとしWEBサイトを更新・充実させることで、後続の介護施設の参考となるWEBメディアとする。デジタルマーケティング分析も行うことで、県内の介護事業所の相談需要について客観的データを収集し、広報や支援の参考とします。



- ・情報発信 人、紙、WEBサイト、SNS
- ・事例蓄積 デジタルコンテンツ、WEBメディア
- ・分析 デジタルマーケティング、データ分析
- ・施策改善 PDCAサイクルの循環



関係機関との連携

【目的】 広報協力および事業支援協力による相談者の課題解決支援

- ・県内関係各所とは多くの連携実績があるため当該事業もスムーズな連携を行うことが出来ます。
- ・当センターの事業が開所する初年のため、事業の認知度を高める必要がある。そのため関係各所には事業内容の説明に伺い、広報活動のためのツール（チラシやポスターなど）の設置協力等をお願いします。
- ・相談の内容によっては関係機関に取次ぐことで、相談者の課題解決を支援します。

連携先	想定される連携例	これまでの連携実績（主要なもののみ抜粋）
三重県長寿介護課	広報協力、補助事業（介護ロボット・ICT等）、各種研修会、情報収集 など	三重県介護従事者確保事業の実施（魅力ある職場づくりセミナー・雇用管理相談・生活援護従事者研修・介護補助員講習・出前研修）、各種補助金・研修会の企画への参画
三重労働局 ／ハローワーク	広報協力、情報収集、ミスマッチの無い採用、人事労務業務のDX化、介護の仕事の魅力向上 など	人材確保・育成等に関する業務 三重労働局福祉人材確保推進協議会委員、充足・定着支援パッケージ事業 三重県社会福祉施設SAFE協議会委員
三重県福祉人材センター	広報協力、情報収集、ミスマッチの無い採用、人事労務業務のDX化、介護の仕事の魅力向上 など	三重県福祉人材センター運営委員会委員 介護就職フェアへの出店及び事業協力 人材確保・育成等に関する会議への参加
三重県社会福祉協議会	広報協力、情報収集、介護フェア等のイベント参加、介護ロボット体験 など	三重県福祉人材センターに係るイベントや会議への参加、介護フェアへの出展など

よろず支援拠点、ハローワーク、三重県介護福祉士養成施設協会、三重県老人福祉施設協会、三重県老人保健施設協会などにも広報協力や情報収集、資金確保相談、採用相談など各種連携を予定。

個人情報管理

個人情報管理規定を定め、保有個人情報等の管理を徹底します。

(一部抜粋)

- ・個人情報書類持ち出し許可簿
- ・外部電磁的記録媒体整備台帳
- ・外部電磁的記録媒体持ち出し許可簿
- ・USBは、常時空の状態にし、使用時にのみ必要なデータを入れ、普段は、金庫等にて保管します。
- ・また、個人情報保護のためのチェックリストを用い、定期的に個人情報管理に対する意識の徹底を行います。
- ・使用する機器や各種研修会等の事業所情報等においても、取り扱い職員間（兼務職員を含む）で十分に留意し、紙媒体にして使用する際には、最小限のコピー枚数とします。
- ・万が一、個人情報が漏洩した場合には、受託元への第一報とともに関係した事業所等への訪問等による謝罪と経過説明及び再発防止策を協議し、それに基づき再発防止策を徹底します。

法令遵守・コンプライアンス

公共の福祉に資することを最優先し業務遂行・執務への専念を意識する。

外部専門家、展示会、導入先事業所への納入業者等、様々な場面で業者と関係することが想定されるが、三重県受託事業として常に揺るぎない姿勢・態度で接し、真に必要な支援に努めます。